

## 子どもたちにはぐくみたい能力の例

- 「トライやる・ウィーク」による生徒の成長への効果（「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』－10年目の評価検証（報告）」（平成20年3月「トライやる・ウィーク」評価検証委員会）より）
  - ① 自己認識の深まり・自己変容の実感  
人との関係をつくる能力の育成、日常のコミュニケーション能力の向上、社会の一員としての自覚の育成
  - ② 人間関係の深まり  
人との関係をつくる力の育成、日常のコミュニケーション能力の向上、社会の一員としての自覚の育成
  - ③ 生活や学習の基盤づくり  
自分をコントロールする力の向上、基本的なモラルなどの倫理観の育成、学んだことを活用して課題を解決する力の育成
  - ④ 生活環境への肯定的認識の高まり  
感謝や尊敬などの地域の大人や親の生き方への意識の高まり、礼儀や言葉遣いなど基本的な社会ルールを守ることの大切さの理解
  - ⑤ 職業観・勤労観の深まり  
学ぶこと、働くことの意義の理解、進路意識の伸張、公共の福祉に尽くそうとする態度の育成
  
- 自然体験学習の教育的効果（自然体験学習の実態と教育的効果についての調査研究（県立南但馬自然学校））において、特に変容が大きいとされた項目
  - ① 朝起こされなくても自分で起きることができる
  - ② 友達よりうまくできないことがあっても、いやになったりせず頑張り通すことができる
  - ③ 脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる
  - ④ 歩いている途中で疲れても、文句を言わないで歩き通すことができる。
  - ⑤ 班長やリーダーを積極的に引き受けることができる。
  
- 「行動の記録」として例示されている項目  
「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成22年5月11日初等中等教育局長通知）において例示されている、学校生活全体にわたって認められる児童生徒の行動を評価するための項目。  
基本的な生活習慣、健康・体力の向上、自主・自立、責任感、創意工夫、思いやり・協力、生命尊重・自然愛護、勤労・奉仕、公正・公平、公共心・公德心

○ 「社会人基礎力」

平成18年に経済産業省が「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を3つの能力（12の能力要素）として整理。

- ① 前に踏み出す力（アクション）：一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力  
「主体性」、「働きかけ」、「実行力」
- ② 考え抜く力（シンキング）：疑問を持ち、考え抜く力  
「課題発見力」、「計画力」、「想像力」
- ③ チームで働く力（チームワーク）：多様な人々とともに、目標に向けて協力する力  
「発信力」、「傾聴力」、「柔軟性」、「状況把握力」、「規律性」、「ストレスコントロール力」

○ 「nEQ（日本人のEQ能力アセスメント）」

※EQ・・・Emotional Intelligence Quotient（感情知能指数）

財団法人労務行政研究所が開発。アメリカのアセスメントをより日本人に適したものに改変して作成。

- ① 自己対応能力（自己を活かす能力）  
「自己肯定能力」「自己調整能力」「堅実的態度」「自己実現能力」
- ② 他者対応能力（他者との関係の中で、相互によりよく生きる能力）  
「対人関係維持能力」「対人関係発揮能力」
- ③ 社会性（組織や社会の一員として広い視野に立って生きる能力）  
「社会意識」「社会貢献志向」
- ④ 精神性（人間としての生き方を深く考えより豊かに生きる能力）  
「人や生き方への態度」「畏敬の心」

○ 道徳教育における重点として明確化された内容（〈指導の手引き〉「生命を尊重する心」と「規範意識」の育成～自己の生き方を見つめる道徳教育をめざして～）（平成22年3月兵庫県教育委員会より）

- ① 生命を尊重する心
- ② 規範意識

○ 「体験の力（体験を通して得られる資質・能力）」（「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」H22年5月国立青少年教育振興機構より）

体験の力	代表することがら	
自尊感情	自分のことが好き	家族を大切にできる
共生感	休みの日は自然の中で過ごすことが好き	悲しい体験をした人の話を聞くとつらい
意欲・感心	もっと深く学んでみたい	なんでも最後までやり遂げたい
規範意識	叱るべき時はちゃんと叱れる親が良い	社会のルールは守るべき
職業意識	大人になったら仕事をするべき	社会や人のためになる仕事がしたい
人間関係能力	人前でも緊張せずに自己紹介ができる	近所の人に挨拶ができる
文化的作法・教養	お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべき	はしを上手に使うことができる